

竜丘の隠れ名所「白井秘境」

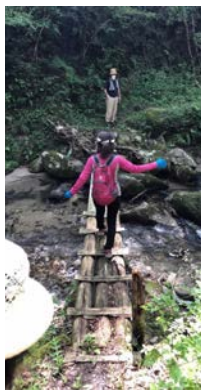
待ち遠しかった梅雨明け宣言が発表された8月1日、白井秘境の丸太橋整備を予定していることから、広報啓発プロジェクトの現地見学を実施しました。桐林産業公園奥の上流から下流の上川路方面へ抜けるコースで、メンバーは自治会長、地域振興委員長、広報の女性委員4名の計6名です。

長雨のため足場の悪い箇所もありましたが、下草が刈られており、思ったよりも歩きやすかったです。

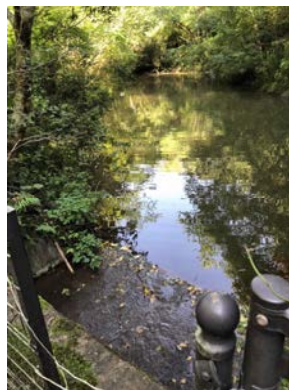
川に架けられた6ヶ所の橋は2～3本の丸太で組まれており、中には見るからに湿っていて足を滑らせそうな状態で、ひとりの重さに耐えられるか心配になる程朽ちているものもありました。水量も普段より多く、流れも速く、かなりスリリングでした。苔むした竜りゅう西一貫水路さいいっかんすいろ、座頭の手ざとう、馬桶岩まおけいわ、駒の蹄跡こま つめあと、黄金ヶ滝こがねがたきなどの奇岩や怪岩、名勝を見ながら1時間かけて歩き、約2kmの秘境ツアーを満喫しました。

このまま整備されず、丸太橋の老朽化が進めば、木々に埋もれてしまい「昔はそんな場所もあったなあ」と思い出話になってしまいます。かつてここを通ったであろう人々に思いを馳せ、大人がちょっとしたトレッキングを楽しむには十分満足できるスポットでした。

秘境を活かすのも埋もれさせてしまうのも自分達の思いひとつです。是非一度は行っていただきたい竜丘の名所でありました。
(長野原女性委員 小林ゆかり)



黄金ヶ滝



支え合いマップ ～地区のみんなで身を守る～

近年、全国各地で大規模な地震や風水害が発生し、その中で救助された方の多くは、地域の助け合いによるものと言われております。高齢者や障がい者の方など一人で避難できない方への支援が必要となりますが、そのためには地域の方々による助け合いが不可欠です。また、核家族化を背景に一人暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯が増えてきており、日常の見守りや支え合いが必要となります。こうしたことから、住民相互の支え合いである『共助』の仕組みを築いていく必要性が求められています。高齢者等

《支え合いマップの例》

竜丘地区は、区毎で支え合いマップを作成しています。



への支援を目的とした『住民支え合いマップ』がありますが、共助の仕組みを築いていくためには、マップの作成や更新作業に多くの方が関わり、地域の福祉課題や見守りを共有する——こういった作業を繰り返し行うことで、共助の仕組みを築いていけると思っております。『住民支え合いマップ』を活用して、皆で支え合い、安心して暮らせる地域にしていきたいと思います。(駄科福祉健康委員 湯田貴行)

連載シリーズ 第15回 ～紹介します～ 「長野原竹宵の会」



—1本の竹が感動を呼ぶ—

私たち長野原竹宵の会は、平成28年7月有志により発足しました。天竜川鷲流峡復活プロジェクトと共に里山の環境美化活動、地域の竹林の整備活動に参加しています。以前は、竹を使ったかご、うちわ、野菜の補助材等様々に使用されてきましたが、現在は他の加工品材料に代わってしまいました。竹を管理して育てる環境が少なくなっています。そのような中で私たちは、整備された竹を使って、竹灯籠作りを始めました。製作の経験はありませんでしたが、時又の灯ろう流しや、ワークショップ等地域のお祭りやイベントにお声がけを頂いて徐々に楽しんで製作し、皆様に評価を頂けるようになりました。今後こだわりの竹灯籠を製作し、積極的にイベントなどへ参加したいと考えています。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



私たちは、ふれあいの心を大切にしていまいます。（長野原竹宵の会 代表 大野譲）

人権擁護委員が変わりました

令和2年7月1日～令和5年6月末の任期で法務大臣から竜丘地区人権擁護委員として委嘱発令されました。

○人権擁護委員氏名 塩澤 忍

○人権擁護委員とは・・・いじめ、差別、虐待、セクハラ、配偶者やパートナーからの暴力、近隣間の騒音などの人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行っています。

ひとりで悩まずご相談ください。秘密は守ります。相談は無料です。

みんなの人権110番 0570-003-110 (全国共通)

子どもの人権110番 0120-007-110 (全国共通)

女性の人権ホットライン 0570-070-810 (全国共通)

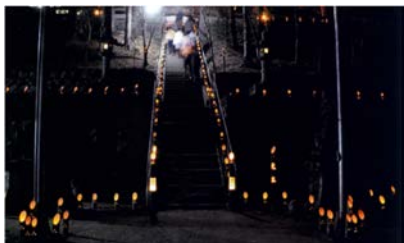
電話のほか、面接やインターネットでも相談ができます。

竜丘 四季折々の植物〈5〉 ～ 上川路八幡神社のもみじ ～

国道151号上川路信号を県道時又中村線一伊賀良方面に70m程進み右折、200m程進むと上川路八幡神社の鳥居の前に出ます。石段を24段上がると直会所広場があり、両脇に幹回り4.5m、高さ40m、樹齢300年以上と言われるモミの木があり、そこには遊具があり子供たちが遊んでいます。



広場より50段上がると本殿がありますが、昭和11年に山を造成して、中段にあった本殿を現在の場所に再建しました。その石段の両脇に30本余りのもみじの木がヒノキの木陰の中に植えられていて、11月中旬になると緑色から赤色や黄色に変化し、実に綺麗な色に紅葉します。神社が上川路の端にあるため、なかなか多くの皆さんの目に触れられないのが残念ですが、是非足を運んでください。



このほか八幡神社では、毎年当番組合が協力して、春のお祭りに餅投げを行います。これは、氏子の皆様の寄附により蚕玉様の行事として行われています。また大晦日から元旦にかけて、竹宵の会（遊心会）の有志の皆様が、270本余りの「竹灯ろう」を鳥居から本殿まで奉納して下さり、初詣に来た人たちの目を楽しませてくれています。（上川路 熊谷和美）